

公表

事業所における自己評価結果

○ 本評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所に従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。

「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		・今年度から新しい部屋を放デイ用に新設している。 ・個々に合わせた構造化をやっていきたいと思う
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		・基本人員を満たしている ・実際の支援をさらに充実したものとする為にはあと1名は必要と感じている
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		・物理的構造化を行っている事業所。 ASDやADHDなどの神経発達症の利用者には有効な環境となる事が多い。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・掃除・消毒等には配慮を行っています。 ・建物自体が古くなっている為、内装に関しては今後改修できればと思っている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		カーム・遊技室・個室を用意している
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		人事考課を半年に一回に行い、職員のスキルアップに努める
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		公表した内容に関しては保護者に周知している。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		トップダウンにならないように職員から意見を述べてもらう機会を会議などで設けている
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	第三者からの評価は出来ていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		研修に関しては外部の研修だけでなく最近ではインスタグラムで発信されている専門職の方のライブ配信を通して学びを深める機会も多くなっている

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		年度当初に支援プログラムを策定し面談時に詳しく説明を行っている
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		日々の支援の中でアセスメントを行い、課題を言語化する作業をしている。その内容を支援計画へと汎化させている
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		支援計画作成時にはスタッフ全員で支援会議を行い、多角的に児を捉えた内容で作成をし共通理解の下支援を行うようにしている
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		草案段階から全スタッフに配布し確認を行う。支援会議の場で支援の手順等を共有している
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	5	アセスメントに関しては個人のケース記録に記入しているが標準化されたツール等を活用できていない現状にある。より簡略的に支援の中でアセスメントが取れるよう、ICT導入等
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		5領域+家庭支援+地域支援で計画の立案をしている。モニタリングの際には家庭と5領域の内容を基にニーズの聞き取りを行っている
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		前日の夕方もしくは当日の朝にその日の流れを確認するようにしている。スタッフが集まる事ができない時にはSNS等を活用し動きの確認を行っている
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		日々のプログラムに関しては極力固定しないよう話し合いを行い工夫をしているが難しい場合もある。同じ活動プログラムの中でもねらいを変えたり、スタッフの関わり方・視点を変えたりなどを行っ
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		計画の中に優先順位を設けると共に配慮事項も記載を行うようにしている。児の様子を想定し、調子が悪い場合の支援内容等も記載をしている
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		前述どおり前日か当日に打ち合わせ・不可能な場合にはSNSを活用するようにしている
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		上述
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		個別のケース記録をとるようにしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		半年に1度はモニタリングを行うようにしている。都度見直しは現状できていない。

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		担当・児発管の2名対応が多い。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		関係機関が多くなっていき、役割の明確化を行うことで全体の支援の負担軽減が出来たことの反面でスケジュール調整や情報の共有に時間を割いてしまう事が多くなっている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				保護者の方々・本人の意向を最優先に移行支援を行う。その際に保育所等と連携を取り、より生活レベルの中で成功体験を増やせるよう支援を行う。それらの内容を移行先へと共有する。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			・事前に関係する機関とケース会議等を行う機会を設けるようにしている。児の環境の変化への不安を減らす事が出来るよう、学校見学等と同様情報共有を行う場合もある。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5			適宜、圏域の療育相談員等に連絡を取り、対応困難な事例に対しての助言等を頂くようにしている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5		関わりは特にない。今後地域の人たちを招いたイベント等を企画している段階
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			送迎時・面談時・電話・SNSを通して情報の共有を行っている。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		5		家族の対応力向上としての研修等は行っていない。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	契約時に説明を行うと共に連絡帳でのお知らせ、SNSでの発信等を行っている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	本人の利益、家族の意向等は面談時にすり合わせを行っている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	必ず確認いただいた後に変更点等ないかがってから同意を頂くようにしている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	相談がある場合は面談、関係者を集めた会議を開いてもらう声掛け等を支援として行っている。場合によっては学校にうかがって様子を見せていただいたりしている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	父母の会・保護者会等はない。保護者・兄弟児の参加のイベント等は開催している。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	貴重なご意見を頂いた場合は迅速な対応を心がけている。トラブル等に発展しないよう、日頃のコミュニケーションを大切にしている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	SNSを活用する事で保護者との連絡や情報の発信等が飛躍的にスムーズになっている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	個人情報に関しては契約時に個人情報の取扱いに関しての同意書を頂き、面談時には変更・継続の確認を取るようにしている。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	利用時に関してはPECSトレーニング等を通じたコミュニケーションの向上を目指している。保護者に関しては、電話・LINE・直接あって話すのいずれかが得意不得意がある方もいる為あわせるように
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	法人の祭り等には地域の方々にも声を掛けている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	記載されているもの全てにマニュアルを作成していない。今後の課題。防犯のマニュアル作りを行っている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	BCP作成済み。年2回の火災を想定した避難訓練・年一回の洪水を想定した避難訓練、区市町村のシェイクアウト訓練等を行っている。不審者に対する避難訓練を今後入れていく予定。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	面談時にかかりつけの病院や服薬の変更等確認をしている。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	アレルギーの有無に関しては契約時に確認を行い、調理実習等もスタッフ間でアレルギー対応が必要な児がいなければ確認を行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	アレルギーの有無に関しては契約時に確認を行い、調理実習等もスタッフ間でアレルギー対応が必要な児がいなければ確認を行う。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	安全計画に関してHP・インスタグラムを通して掲示を行う予定。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	事故に繋がらうる事案が合った場合には都度職員から周知をするようにしている。気づいた事が合った場合にはすぐに報告をしてもらうようにしている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	法人の虐待防止研修に参加をしている。あおぞらのスタッフ間でも虐待防止研修を行うようにしている。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	やむを得ない場合には身体拘束に繋がるような行為を行う事を支援計画に明記している。